

公民館月報

K O M I N K A N G E P P O



特集 「公民館運営のあり方を巡って」 鈴木 友夫

- 4.5
- 2 トピックス 新潟県公民館大会・佐渡大会
- 3 視点 「次世代につなげる公民館づくりを」 佐渡市・松井夫佐子
- 3 ひろば 「長岡にようこそ」 長岡市・片桐 佐利
- 6 実践記録シリーズ 「父親学び舎事業」 魚沼伝習館・角屋 暢洋
- 7 サークル交流 「三十年目に向けて」(上越市) / 「スマイル!スマイル!!」(田上町)
- 7 素顔拝見 西山ナナ子さん(新潟市) / 小林 義明さん(津南町)
- 8 お元気ですか 新発田市 阿部 政康さん
- 8 ネットワーク 「月刊公民館8月号」に新潟市の事例紹介記事掲載



神楽サミット 十日町市

表紙解説

十日町市には「獅子神楽」が広く伝承されてきました。多くが消滅する中、現存する7団体が一堂に会し熱演しました。

新潟県公民館大会・佐渡大会

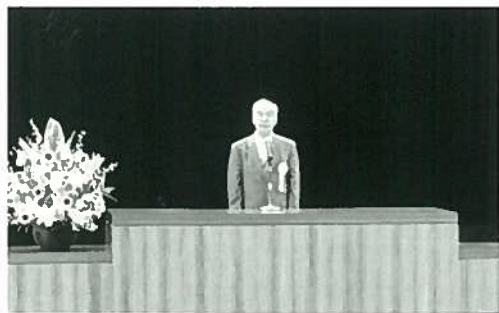
第62回新潟県公民館大会が7月15日(金)佐渡市で開催されました。会場は両津文化会館で県内各地から約240名が参加しました。気温が30度を超える暑い日でしたが、講演、事例発表などが予定どおり行われました。



受付

開会式では三國豊大会実行委員長と大塚美光県公連会長のあいさつがあり、続いて永年勤続者の表彰がありました。被表彰者12名のうち参加された4名に一人ずつ賞状と記念品が贈呈されました。

*記念品は、「無名異焼・赤水釜・帯湯飲(菊)」
永年勤続受賞者*敬称略
齋藤良子・新潟市
浅見 睦・加茂市
池田直人・十日町市
小海 茂・
徳永隆治・
長井保忠・
高橋宏一・
徳永博子・
塚野由喜・五泉市
鈴木一弘・
比企一夫・
生沼信昭・



三國実行委員長のあいさつ



受賞者

講演は、東北大学の石井山童平氏で1時間半にわたって熱弁をふるわれました。東日本大震災で、現地での自らの実践に基づいたお話は参加者から好評を得ました。



熱弁の講師

お昼には、県無形文化財「鬼舞つぶろさし保存会」がアトラクションとして披露され、会場から大きな拍手が送られました。



熱演の「つぶろさし」

午後は、各地区代表三名による実践発表が行われました。

- ①上越地区・小島治夫 (糸魚川市)
- ②中越地区・星野修美 (魚沼市)
- ③新潟地区・棚橋祐介 (新潟市)

助言者(下越教育事務所社会

教育課長・里山政信氏)
司会者(下越教育事務所社会
教育課副参事・武石由紀氏)



事例発表の3人



司会・助言者

最後に、次期開催地の糸魚川市に大会旗を引き継ぎ本年の県大会を終了しました。なお、大会の詳細については次号の特集で掲載します。

視点

次世代につなげる 公民館づくりを

佐渡市公民館運営審議会
委員長 松井夫佐子



私を育ててくれたかつての社会は、大人たちの結びつきが強く、あいさつや支え合いがあり、それぞれの年齢層が生き生きと活躍していた。そして、どの子どもも大切にされ、日常的に声かけがあった。おじさんおばさんの笑顔が鮮明に思い出される。

日舞を習うために通った公民館には、婦人会や青年団の人たちが集い、町を巻き込んだ活動を企画し、住民の生活に希望を与える活動をしていった。私も、敬老会で踊ったり町民運動会の仮装行列に参加したりして褒めてもらい、嬉しくて楽しかった。公民館は、世代を超えて、人間として生

きる喜びや支えを創る拠点になっていったようだ。

現在、社会は大きく変わり、佐渡の人口も当時の半数にまで減少し、過疎化や少子高齢化が進んでいる。平成十六年三月、市町村合併により佐渡市が誕生した。市の職員や予算の削減を免れない今日、公民館の在り方についても見直しが始まっている。

大震災後の日本を担う子供たちの幸せを保障するために、公民館の原点に立ち返り、集い、学び、結ぶことの大切さを市民に説明し、共に次世代につなげる公民館づくりができることを期待している。

H O T N E W S 掲 示 板

第1回公民館月報編集委員会開催

毎月発行の「新潟県公民館月報」は定期的に編集委員会を開き、紙面構成や特集記事の執筆者などを検討しています。

今年度の編集委員は次の方々です。

- 1 内藤 薫 (県立生涯学習推進センター)
 - 2 ○市川睦美 (上越市直江津地区公民館)
 - 3 星野修美 (魚沼市中央公民館)
 - 4 ○伊藤徳光 (刈羽村公民館)
 - 5 堀 富雄 (聖籠町公民館)
 - 6 ○船山靖子 (新潟市中央公民館)
 - 7 佐藤武晴 (新潟市新津地区公民館)
 - 8 田原 理 (県公連事務局)
- * ○は新任



3月開催の22年度編集委員会の様子

後期を中心とした紙面を検討するため、下記により編集委員会を開催します。

「公民館月報」第1回編集委員会

- 1日時 平成23年8月8日(月) 13時30分～
- 2会場 新潟市生涯学習推進センター・中央公民館 (クロスパルにいがた)
新潟市中央区礎町3ノ町2086

長岡のみんな

ひろば

長岡市社会教育委員・公民館運営審議会委員 片桐 佐利

東日本大震災の原発問題により勤務先では三月十六日避難所を開設し、高齢者・幼児・児童を含む避難者は百名に達した。避難所での生活は慣れない場所での不便な暮らしであるが、子ども達が元気に暮らしている様子が一番の安堵と励みになった。職員は生活者の声が届く位置に立ち、話を聴いたり、手伝いをさせていただいた。幼児の為に紙芝居と「手のひらを太陽に」の歌を始めた。その輪の中に小学生が集まった。そして一日一回小さな親切運動を提案し、子ども達と気持ちのキャッチボールが始まった。三ヶ月たち二次避難所への移行が決まった時、子ども達からお別れ会をしたという手紙を買った。お



別れ会は小学校低学年の五名が計画し進化した。一日がかりで十のプログラムのうち一番やりたかった大人対子ども達のサッカーの試合は一時間の接戦に心地良い汗を流した。午後三時半には避難所に入って初めて、苺ケーキを味わって茶話会ができた。南相馬市からの皆さんのそばに居て、明るい笑顔と声掛けを心した。長岡によう来てくださったと、今感謝しています。



あり方を巡って」

委員の視点から —

ここでは省略したい。
 なお、公運審委員9名(旧委員も含む)が事業に参画した。

◇青少年の居場所を考える地域づくり

平成13年度の第1回公運審会議は、大荒れとなった。それは、事務局より提案された「青少年の居場所」づくり、とくにロビー等を利用したフリースペースの設置に関する議題だった。

青少年育成協議会及び自治会関係の委員から、こぞって反対論が噴出した。反対の根拠は、「自由に使わせたら溜まり場になる」「喫煙場所になってしまう」「他所のワルが寄ってくる」「不純交遊の場となる」等等、マイナス思考の意見が多かった。

事前の根回しがなく、地域及び青少年育成組織の代表としての面子もあったかもしれないが、また、事前に相談していたら、逆にこの提案は潰されていたかもしれない。

前期より議長に就任していた私は、何とか事務局案どおり通したいと考えたが、言うだけ言ってもらった後、方向性を示すこととした。

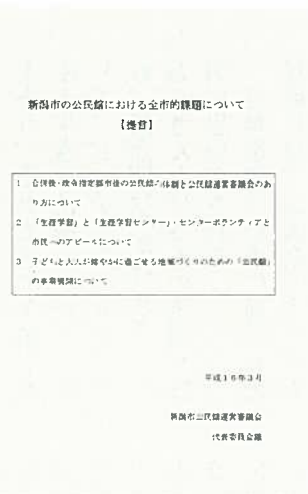
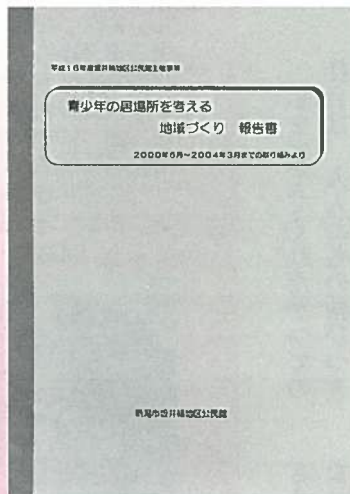
頃合を見計らって私から、生徒指導困難校2校での実体験の紹介、女性委員及び発言を控えていた委員から本音を披露してもらい、何とかプラス思考へ転換していただいた。

青池館長は、隣接中学校生徒の受入れ、相談等も既に行い、また先進事例照会もなされていたので、さらに先進地視察と「居場所」の試行は慎重に、ということでも了承を得ることができた。

以後の実践内容については、「青少年の居場所を考える地域づくり報告書」に詳述されているので、ここでは、補足程度に留めたい。

○平成13年度

- ・先進地視察 「ゆう杉並」「ばあん」
- ・「らびりんす」 広報紙かわら版刊行
- ・子どもたちとの意見交換会



- ・思春期の子どもを考える学習会
- ・フリースペースボランティアスタッフ養成講座
- 平成14年度(新規のみ)
- ・思春期及び地域講演会
- ・スタッフ会議
- 平成15年度(新規のみ)
- ・思春期学習兼スタッフ研修会

なお、公運審委員1名、スタッフとして参画。

◇新潟市の公民館における全市民的課題について

第1回平成16年3月、第2回平成18年6月、第3回平成21年3月の3回にわたって、提言作成委員として執筆にかかわったが、特に印象に残っているのは、第1回の第1部会で「合併後・政令指定都市後の公民館体制と公民館運営審議会のありかた」について検討・協議を重ね、案文の作成・提案に漕ぎ付けたことである。

青池館長との連絡を密にしながら、斎藤良子部会長のリーダーシップの下、部員一同知恵を出し合い完成に導いたことが懐かしい。

現行制度がこの提言に基づくもので、区ごとに基幹公民館を置き、公民館運営審議会を必置している指定都市は他に存在しない。全国に誇るべき制度であり、大切にしていかなければなるまい。

◇おわりに

3月18日の第3回公運審は、東日本大震災の犠牲者への黙祷から開会された。

議題の中で特に注目されたのが事業評価シートで、各委員がそれぞれ所属する立場で、的確、適切な評価を行っていたのがとても印象的だった。

西区管内の坂井輪、西、黒崎、小針青山の各館長さん方がとても意欲的で、先見性・包容力を有し、地域課題の把握も的確で、気分良く退任できたことを、心よりお礼申し上げたい。

特集

「公民館運営の — 公民館運営審議会



前新潟市坂井輪地区
公民館運営審議会
議長 鈴木 友夫

◇はじめに

本紙第2回編集委員会で、私に与えられたテーマは、「公民館運営の現状と課題」であったが、余りにも大きく、恐れ多いので、標記テーマに変更し、15年間にわたる公民館運営審議会委員の視点から記述させていただくこととした。

※以下、公運審の略称で記述

◇大学連携事業としての「坂井輪地域学」

平成8年4月、ユースホステル仲間の、当時公民館長だった吉田英延さんから電話が入った。

「ひまのようだったら、公運審委員に就任してくれないか。」との要請だった。定年退職後は自由の身で旧友の依頼でもあったので、即座に応諾した。

第1回の会議に出て見てびっくり、当時、新潟国際情報大学との連携事業「坂井輪地域学」を発足させ、趣旨・ねらい、大学・地域・公民館の位置づけ・役割分担、事業実施方法等提案されており、その審議模様は、喧々諤々、そしてそもそも論にやや終始し、迫力十分ではあったが、多大な時間を要した。所要時間は、4～5時間は並で、夕食準備時間帯に入ることもあった。私は、女性委員の立場を考え、いつも議事進行係に終始せざるをえなかった。

論客も多かったが、実践家も多く、環境学習を採り上げての活動実績が認められ、平成9年8月第38回関東甲信越静公民館研究大会（於千葉県木更津市）第14分科会の環境学習で、公運審委員の飯塚謙助さんが、国際情報大学と公民館の連携事業—「坂井輪地域学」の運営と取組み—について発表、高い評価を得た。

○その主な内容

(1) 役割、連携分担の明確さ

①大学は、地域の構成要素、人間関係の諸要素に関して基本的な講義を受け持ち、地域から上がってきた情報を基に将来を予測し、数値化、図式化。

②地域は、大学の講義を受けて共通理解の上に立って、地域課題について情報提供する。また、大学から提供された資料を基に、今後懸念される問題点を研究し、明らかにし、広報やイベントをとおして地域へ提言。

③公民館はこの事業を主催し、事業全体の方向付けを行い、大学と地域の連携・調整にあたる。

(2) テーマ設定と事業推進の確かさ

①地域課題の適正さ

地球規模での環境保全が叫ばれる中、新潟市が平成8年4月から開始した「ごみ」の6分別収集の問題を学習テーマに取り上げたこと。

②実践活動の確かさ

地域内157自治会から「ゴミ」分別の現場を預かる役員、主婦からの参加者30名で活動実践。

- ・ 1班「資源回収の推進」
- ・ 2班「家庭ごみの減量対策」
- ・ 3班「資源リサイクルの徹底及びごみ6分別収集の徹底」
- ・ 4班「ごみステーションの現状と6分別収集の効率的運用」

(3) 実施後の反省と評価

- ・ 大学側の専門的な助言を受けながらの実践発表は、今後の問題解決の大きな指針となった。
- ・ 大学との連携、地域住民の参加例は、県内初の事例で、高く評価された。
- ・ なお、公運審委員4名が事業に参画。

◇「自然と文化のまちづくり」の地域学

平成10年度の第1回公運審開会に先立ち、青池真佐子館長は、委員全員を公民館5階屋上に案内、広く地域の四方を俯瞰し、地域内人口は、新発田市とほぼ同数であり、密集した新住宅地が殆どであるが、西川沿いには昔からの農村集落が存在し、営農に励んでおること等、地域の特性を説明した。そして、今年度からこの坂井輪地域の特性について地域学の学習内容に取り上げたい、と結んだ。

地域学研究会の活動内容は、内外で高く評価され、中間及び完結報告書に詳述されているので、

実践記録

161

シリーズ

「父親学び舎事業」

NPO法人 野外教育学修センター魚沼伝習館 角屋 暢洋

～計画に至ったきっかけ～

NPOをはじめとした市民団体によって、子ども達向けの様々な取り組みや活動が行われています。

参加された方は活動を通して、新しい発見や教養を深めていることだと思います。私たちも、自然体験活動を通じて、子ども達と保護者の方に体験の場を提供しておりますが、子ども達と一緒にお母さんは参加するのに、比較のお父さんの参加が少ない…お父さんと一緒に子ども達も参加したら、子ども達もお父さんも強い絆づくりなど相乗効果が生まれるのではないかと考えたことがきっかけでした。

～活動の目的～

勤務体系の多様化(土日勤務や就業時間のシフト、変則勤務など)によって、様々な生活様式が生まれました。これに伴って、子ども達と過ごす時間が減った方や、様々な地域行事に参画することが難しくなった方もいらっしゃいます。積極的な活動を行いたくとも、こういったことが影響し、いざ活動へと思っても二の足を踏み参加をためらったり、地域の子供達やわが子に対してどう接すれば良いのかといった「悩み」が生まれてしまう方もいらっしゃるのではないかと思います。こういった「忙しい」お父さんの貴重な時間を活用して「学び舎」を開催し、地域と家庭、それぞれに参加しやすくなる、きっかけづくりを作ることが目的です。

～どうやって～

私たちが活動をする魚沼は自然豊かな環境です。この自然を活用したさまざまな活動が至る所で実施されています。自然体験や自然を使ったものづくりが昔から取り組まれています。この活動を用い、子ども達を対象とした、「学び舎」の開催を計画しています。会場は身近な公民館やコミュニティセンターとし、実際の指導にはコミュニティ等に所属する近隣の方々をお願いし、ここにサポートする形としてお父さんから入っていただこうと考えています。

面と向かって指導することに慣れていないお父さ



んも、熟練の技術を持つ方々と共に指導することで、子ども達への接し方も実践を通じて学ぶことができ、更に地域の方々と指導を共にする関係から、繋がりがづくりのきっかけを持てるのではないかと考えています。

～父親学び舎事業の日程～

(9月～2月までの計6回を予定しています。)

1回目(創作体験)

自然物(木や竹)を使ったクラフト。

日程:平成23年9月4日(日)午前中を予定

2回目(屋外活動)

自然の中で遊んでみよう

河原や芝生での体を動かす活動

日程:平成23年10月7日(金)放課後・夜間を予定

3回目(屋外活動)

自然の中で遊んでみよう②

山林や落ち葉を使った体を動かす活動

日程:平成23年11月19日(土)午前中を予定

4回目(創作活動)

クリスマスやお正月に向けたクラフト作り

リースやしめ縄作りなど季節感のある創作活動

日程:平成23年12月3日(土)午後を予定

5回目(屋外活動)

雪で遊ぼう

そり遊びや昔の遊びを使った体を動かす活動

日程:平成24年1月15日(日)午後を予定

6回目(屋外活動)

雪を使って作ってみよう

雪像・雪洞づくり体験

終了後、同世代子育て有識者との意見交換会

日程:平成24年2月12日(日)午前、午後を予定

～この活動から～

お父さんたちにとってはいきなり指導に回ることになるので、戸惑う部分が多いのではないかと考えています。でも、日頃一生懸命働いているお父さんだからこそ、うまく指導しようとする姿勢が子ども達に伝わっていくのではないかと考えています。また、回数を重ねるごとに、地域の方ともコミュニケーションが図れ、地域社会とのつながるきっかけが産み出され、活気のある地域社会の繋がりがづくりになればと考えます。

三十年目に向けて

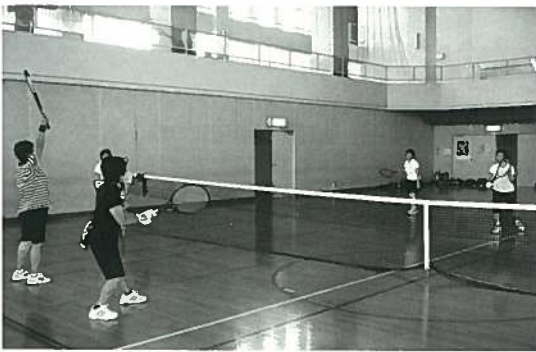
エル

市のテニス教室から立ち上げて、二十七年との話です。現在は七人。三人は当時からで心強い限りです。

今は、週二回カルチャーセンターを利用しております。

六十代に入り、膝が痛い。孫の用事等、色々ありますが「体を動かし」「汗を流し」「大きな声を出す」気持ち良さと、休憩時の談笑にストレスの発散の場として、テニスを楽しんでおります。

健康に気をつけ、無理をせ



ず、を「モットー」とし、三十年目に向かって「元気」に活動していきたいと思っています。

上越市・
テニスサークル エル
岡山レイ子 記



スマイル！スマイル！！

フラ・オー・パラパライ

私達は三条市より先生をお迎えして月二回、そして自主練として踊り込む場を設け、併せて月三回、公民館のお世話になっていきます。

若者がすぐに覚えてしまう曲も、年齢が高くなるにつれ、

回数で勝負。そして次第に踊れるようになってまた、次の曲が待ち遠しくなるのです。現在は各種イベントへの参加や、施設で踊らせて頂きながら、少しのミスを恐れず楽しく踊る度胸もついてきたように思います。衣裳が決まると気分はハワイ。身も心もアロハの精神に包まれます。これからの課題は「もっともっとスマイルを!!」です。自然と微笑みが溢れるにはもう少し時間が必要です。踊れる喜びに、マハロ!!



田上町・フラダンス
諸橋 雅子 記

昨年10月に1児(息子)のパパになったスポーツマン主事、小林義明さん30歳を紹介します。

スポーツ万能な彼は、5月10日の夜、バスケの練習をしていて左足のアキレス腱を切ってしまう、全治3ヶ月と診断されました。始め1ヶ月はギプス&松葉杖状態で仕事をしていた彼は、ケガをいいことに上司をアゴで使って、「あれ取って」「これ取って」と…。ある日上司が「もう一つの足も切ってしまえ!!」と(笑)。そんなジョーダンまじりの会

津南町公民館

主事 小林 義明さん



今年の4月、期待の新星が自転車に乗って颯爽と登場して以来、当館は眩しいほどに光溢れている。元気いっぱい周囲を明るく照らす素敵なお顔の持ち主は、家に帰れば9ヶ月の赤ちゃんのママ、西山ナナ子、その人だ。公民館段位は、幼い頃から柔道で鍛え上げた足さばき(フットワーク)を駆使し、僅か4ヶ月にして既に茶帯の某先輩職員を軽々と超越し黒帯も飛び越え紅白帯なのである。切れ味鋭い必殺技が炸

新潟市横越地区公民館

副主査 西山ナナ子さん



素顔
拝見

話やさむ〜いダジャレの飛び交う津南町公民館です。社会教育主事、防火管理者の資格も取り公民館エースとして、青少年育成、高齢者学級、文化芸術活動等幅広く公民館の仕事をしています。この顔を研修等で見かけたら「アキレス腱切って大変でしたね」と声をかけていただけたら、彼も喜ぶ(?)と思いますよ。

(津南町公民館 社会教育指導員 根津サヨ子 記)

裂するのは、子ども体験活動の時だ。開始と同時に子ども達の懐に入るやいなや心の奥襟を鷲掴み。子ども達は、その人柄という内股で一本取られたことに気付くこともできない。まさに瞬殺。事業終了後には、師弟関係が出来上がっているのは言うまでもない。恐るべし、西山ナナ子。

(横越地区公民館 某先輩職員 柏木孝氏 記)

Net work

「月刊公民館8月号」に新潟市の事例紹介記事掲載

全国公民館連合会が毎月発行している「月刊公民館8月号」に新潟市北地区公民館の実践事例が掲載されています。特集「公民館海援隊」に掲載された全国3館のうちの1館に選ばれています。

公民館海援隊は平成22年に文部科学省の公民館振興の目玉といえる事業として立ち上げたもので、平成23年度現在全国で25館の公民館が参加しています。新潟市北地区公民館(佐藤晴夫館長)は事業に応募し、昨年度2月にはその取組をもとに「公民館海援隊シンポジウム」を開催しました。

*公民館月報4月号特集記事として紹介

今回はそれらの活動を含めた北地区公民館の活動と新潟市の公民館改革の動向についても述べています。

問い合わせ先

全国公民館連合会事務局

〒105-0001 東京都港区虎ノ門1-16-8

電話03-3501-9666

新潟県公民館連合会事務局

〒951-8053 新潟市中央区川端町2-9

電話025-224-6073

お元気ですか

阿部 政康 (新発田市荒町)



3月に定年退職したリタイヤ組一年生ですが、今も同じ職場で嘱託として勤務しています。ただ、仕事の内容はこれまでとまったく違い、戸惑いながら“新たな発見や出会い”に一喜一憂している日々です。

この春に長い間撮り続けてきた趣味の写真を1年かけて整理し、友人の詩とコラボさせた「詩・写真集」と同じ内容のホームページをつくりました。

退職しホットした心と勤務が一日6時間というためか現役時代と違い、なぜか時がゆっくり流れるのを感じます。このことから、また新しい角度・テーマで写真に取組みたいと考えています。

趣味でも仕事でもなにか生きがいや目標を持ち続けられる人は幸せだ、と言います。私もそうだと思います。

退職を間近に控え、これからの生活を思い描いていた頃、陸に上がった99歳の元漁師がテレビで紹介された。自営で異業種に取組み、今なお毎日早朝から仕事に励んでいる。「自分の人生に懸けるものがなければお終いだ。だって生きがいがいないもの」と眼を輝かせながら語った言葉が印象的だった。生きがいの先に“人生を懸けるもの”がある、重みと深みを感じた。

この方の歩んでこられた人生がどのようなものであったか知る由もないが、前向きに生きようとする心意気を私も見習っていきたい。

information

第11回新潟県社会教育研究大会が下記により開催されます。大会テーマ「社会の変化や要請に対応する社会教育の在り方」

- 1 主催 新潟県社会教育委員連絡協議会
- 2 期 日 平成23年10月13日(木)～14日(金)
- 3 会 場 村上市民ふれあいセンター
宿泊・情報交換会 瀬波温泉「大観荘」
- 4 参加者 社会教育委員、社会教育・社会体育・学校教育関係者

問い合わせ先

新潟県社会教育委員連絡協議会事務局

県生涯学習推進課 025-280-5616(担当 丹後 裕)

大会主管事務局

下越教育事務所社会教育課 025-231-8361(担当 渡邊和徳)

事務局長のつばき
7年前の各地が豪雨災害です。堤防が決壊して大被害をもたらしました。今回は過去最高の降雨量ながら改修された河川・堤防は持ちこたえたようですが、河川敷で栽培された野菜類は壊滅状態の模様です。水田も各地で壊

あ と が き

害が出ました。稲は出穂の時期です。この時の冠水は生育に致命的なダメージを与えます。農家の皆さんの落胆ぶりに心が痛みます。今回の水害時の住民の避難先には多くの「公民館」が含まれていました。先の大震災でも避難先になつていました。おりしも、全策研究会が8月20日(土)東京で開催されます。詳細は事務局まで。(田原)

道路ふれあい月間

毎年8月は「道路ふれあい月間」です。

『この道で 今日ドラマが生まれてる』

平成23年度道路ふれあい月間推進標語

中学生の部最優秀賞 長岡市立宮内中学校 江島千愛 さん

新潟県道路整備協会

会長(田上町長) 佐藤 邦 義

新潟市中央区新光町4-1 新潟県自治会館内

TEL 025(285)0041 FAX 025(285)1609